

# 第4章 都市の課題の分析・抽出

## 1. 都市の課題の分析・抽出

町民の意向と上位関連計画の整理及び都市構造に係る基礎データの整理から、以下の課題を分析・抽出しました。

		現状
都市構造	人口・世帯動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・松伏町の人口は28,266人、世帯数は10,740世帯（令和2年度の国勢調査）です。平成22年をピークに減少に転じています。</li> <li>・市街化区域内では人口密度が40%以上となるエリアが多く、80%以上となるエリアもあり、人口が集中しています。将来推計では人口密度の低下が予想されています。</li> <li>・高齢化率は市街化区域では30%未満、調整区域では30%以上となっています。2045年（令和27年）将来推計では町全域で40%以上となることが予想されています。</li> </ul>
	土地利用・開発動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市街化区域は、町全域の16.1%で、人口密度は73.8%となっており、コンパクトな市街地が形成されています。</li> <li>・市街化区域面積261.0haに対し、人口集中地区は281.0haとなり、市街化調整区域にDIDが広がっています。</li> <li>・土地利用は市街化区域は住宅用地が主体、市街化調整区域は田と集落が主体の地域となっています。</li> </ul>
	都市機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機能は、松伏町役場が立地しています。</li> <li>・高齢者福祉機能は、市街化区域内及び北部地域に立地しています。</li> <li>・子育て機能は、町全体に点在していますが、市街化区域内は徒歩圏に多くの施設が立地しています。</li> <li>・商業機能は、市街化区域内は様々なタイプの施設が立地しています。</li> <li>・医療機能は、町全体に点在しています。</li> <li>・文化機能は、松伏記念公園周辺に集積しています。</li> </ul>
	市街地整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業が151.9haにわたり実施され、市街化区域の58%を占めており、都市基盤の整った市街地が形成されています。</li> <li>・都市計画道路の整備が進められており、令和7年には（都）東埼玉道路及び（都）浦和野田線の一部開通が見込まれています。</li> </ul>
	公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鉄道駅がなく公共交通はバス・タクシーのみとなっています。</li> <li>・1日に30本以上のバス停留所が多く、市街化区域内はおおむねバス停300m圏内となっています。</li> </ul>
防災・減災	土砂災害 水害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町のほぼ全域が浸水想定区域となっています。</li> <li>・市街化調整区域に小規模な土砂災害特別警戒区域が1か所、土砂災害警戒区域が2か所あります。</li> </ul>

町民意向と上位関連計画等の方向性		立地適正化計画で 対応すべき 松伏町の課題
人口・世帯動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次総合振興計画では、こどもや高齢者にやさしいまちづくりを重点戦略に位置付けています。</li> <li>・国立社会保障・人口問題研究所公表の将来推計人口は、2030年（令和12年）で25,429人、2040年（令和22年）で22,210人、2045年（令和27年）で20,586人です。（令和2年国勢調査をもとにした推計値）</li> <li>・町民意向では、今後5年間で取り組むべきこととして、「人口減少に対する取り組み」や「子育てのための支援・相談体制」等が上位になっています。</li> </ul>	1. 人口減少・高齢化に対応した快適な暮らしの確保
土地利用・ 開発動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口構造の変化への対応と都市課題の解決を目指した「コンパクト＋ネットワーク」のまちづくりが望まれています。</li> <li>・まちづくり埼玉プランや整開保では、コンパクトなまちの実現が位置づけられています。</li> </ul>	2. まちの活性化と暮らしの魅力づくり
都市機能 市街地整備状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整開保において、ゆめみ野地区は生活拠点に位置付けられています。</li> <li>・町民意向では、住みにくさを感じる点として、「娯楽や食事を楽しむ場がない」、「通勤通学、都心に出るのが不便」、「医療環境が恵まれていない」が上位になっています。</li> <li>・町民意向では、「静かであること、自然環境が良いこと」が魅力となっています。</li> </ul>	3. 公共交通の利便性の向上
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6次総合振興計画では、次世代につなぐ活気とにぎわいのあるまちづくりが重点戦略に位置付けられ、地域公共交通の維持とともに、公共交通の拠点としてバスターミナルを併設した道の駅の設置推進やBRT（バス・ラピッド・トランジット）など将来を担う交通網の整備促進を目指しています。また、高速鉄道東京8号線の整備促進を位置付けています。</li> <li>・（都）東埼玉道路と（都）浦和野田線の整備が進められており、松伏町の道路ネットワークの大きな変化が見込まれています。</li> <li>・町民意向では、町が今後5年間で取り組むべきかについて、「充実した公共交通網の整備」が、また、10年後松伏町がどのような町になれば住みたいかについて、「公共交通の利便性が高いまち」との回答が第1位となっています。</li> </ul>	3. 公共交通の利便性の向上
水害 土砂災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激甚化する風水害や土砂災害が全国各地で頻発し、大規模自然災害への対応が大きな課題となっています。</li> <li>・整開保では、災害のおそれのある区域について、都市計画を活用して新たな宅地化を抑制するなど、地域の実情に即した方策を講じるよう方向付けられています。</li> </ul>	4. 水災害に対応した防災性の高い住環境づくり

## 2. 松伏町の課題

### 1. 人口減少・高齢化に対応した快適な暮らしの確保

- ・松伏町では2009年（平成21年）をピークに人口が減少傾向にあり、将来人口推計においても人口減少及び人口密度の低下が見込まれています。また今後20年の間に高齢化が進行し、それに伴い、都市機能の維持が困難になることが懸念されます。
- ・松伏町では、市街化区域内人口密度も高くコンパクトな市街地が形成されていますが、人口の維持を図り、今後もこの特性を維持したまちづくりが望まれます。
- ・また、人口減少・高齢化の進行に対応し、誰もが安心して暮らせる機能の維持が求められます。

→立地適正化計画では【居住誘導区域の設定】、【都市機能誘導区域・誘導施設の設定】【誘導施策】で対応を検討します。

### 2. まちの活性化と暮らしの魅力づくり

- ・松伏町では、静かな環境や静かであること、自然環境が良いことが暮らしの魅力となっています。一方で、5年後、10年後の町へ望むものとして、子育て支援の充実や環境の整備を望む声も多くみられます。
- ・松伏町に現在ある魅力を大切にしながら、更に町民に愛される町となるよう、多様な暮らしのニーズに対応した都市機能施設の立地誘導を図ることにより、まちの活性化や暮らしの魅力づくりを進めていくことが望まれます。

→立地適正化計画では【都市機能誘導区域・誘導施設の設定】【誘導施策】で対応を検討します。

### 3. 公共交通の利便性の向上

- ・松伏町には、鉄道がなく公共交通はバス・タクシーのみとなっており、町民意向では、通勤・通学、都心へのアクセスが不便であることや、公共交通の充実に対する要望が強くなっています。
- ・(都)東埼玉道路及び(都)浦和野田線の整備が進められており、道路環境の大きな変化が見込まれています。これを契機とした沿道土地利用や、公共交通の拠点としてバスターミナルを併設した道の駅の設置推進、BRT（バス・ラピッド・トランジット）など将来を担う交通網の整備促進とともに、高速鉄道東京8号線の整備促進が位置付けられており、今後のまちづくりを踏まえた公共交通の充実への取り組みが期待されます。

→立地適正化計画では【誘導施策】で対応を検討します。

#### 4. 水災害に対応した防災性の高い住環境づくり

- ・松伏町には、江戸川、中川の流域で、町域の広範囲が浸水想定区域に指定されており、災害リスクの分析により、防災性の高い環境づくりを進める必要があります。
- 立地適正化計画では【防災指針】で対応を検討します。